

2017年度

大阪府公立高校 一般選抜入試問題分析

「思考力・判断力・表現力」など、2020年大学入試改革のテーマとなる「学力の三要素」が意識されたと思われる問題が各教科で出題されています。また、英語のC問題【発展問題】では、設問も英語で示された「英問英答」での出題形式が、今年度より導入されています。

英語

【A問題】

今年の入試の特徴

大問は4つ。昨年度と1と2が統合された形で、小問数10で変更はありませんでした。1は「基礎的な語い力と文法力」を、2と3は「基礎的な内容の英文（スピーチと対話文）を読み取る力」を、4は2つの条件を満たす形でEメールを作成するという「英語での表現力」を問う問題でした。

その他の注目点

月名などの基本単語や、動詞の使い方は、確実に得点したいところです。前置詞や接続詞の知識といった文の型の理解を求める設問が出題され続けています。また、代名詞の指示内容を答えさせる設問は、昨年度も正答率が低く、苦戦した受験生が多かったかもしれません。リスニングの聞き取り語数は600語強に減り、内容は標準レベルでした。

【B問題】

今年の入試の特徴

対話文29点、条件作文9点、グラフ入りの長文30点、リスニング22点という問題構成でした。昨年度のB問題と大きく傾向は変わりませんでしたが、標準レベルの対話文とリスニングに対して、条件作文と長文は、不慣れさや難しさを感じた受験生が少なくなかったと思います。

その他の注目点

条件作文の語数は30語程度と前年通りでした。ただ、条件となるEメールの英文を読み取れたか？ 読み取れたとして、きちんと内容のある英語が書けたか？ そこがポイントになる問題でした。語い力と文法力。そして、表現力。この3つの力を問う問題が全体を通して目立ちました。

【C問題】

今年の入試の特徴

筆記30分（10分減）、リスニング25分（10分増）と設定時間が変更されました。リスニングも含め、設問、指示も全て英語。リスニングは2つのシートに分かれ、パートCでは180語の英文を1分で読み、その内容に関する対話文を聞いた上で、5分間で要約するという3技能を統合的に問う問題形式でした。

その他の注目点

長文の題材は、アカデミックリーディングを意識し、科学的内容が多く取り入れられています。対話形式は、出題されておらず、英文特有の論理構成を問われています。条件作文では、A・B問題と異なり、昨年同様、自身の意見を、理由を添えて記述するもので、今年度は語数指定がなくなりました。

難易度（昨年との比較）

昨年と比べ大きな変更はありませんでした。長文の語い数は約170語と約290語、合わせて450語程度です。表やグラフの読み取りが出題されず、内容は日常的な場面を取り扱った、比較的読みやすいものでした。代名詞の指示内容を問う設問、前置詞を問う設問は今年も出題されています。

イングでは…

日々の平常授業での定期テスト対策では、教科書に沿って指導することで、語いや文法の習得を行っています。教科書という多様な題材を通して幅広い場面への理解力を養います。また、春・夏・冬の季節講習会においては、入試によく出題される語いや基本英文を、音読や確認テストを通して覚え直しています。

難易度（昨年との比較）

対話文の語数は500語弱。昨年度に比べて語数は増えていましたが、内容的には標準レベルでした。長文の語数も500語弱。これは昨年度に比べて少し減りました。ただ、内容は少し難化しました。リスニングの聞き取り語数は、600語強。昨年度に比べ語数は減り、内容も標準レベルでした。

イングでは…

3技能向上のために、教科書本文を題材に音読、暗唱、音読筆写、ディクテーションを行います。中学3年生ではそれらに加えて、長文読解教材を用い、音源を聞いて読むなどのトレーニングを通して、速く、正確に英語を読み、理解する力を養います。また、入試対策教材を用いて、入試英文の書き方の指導やリスニング問題演習などを行い、3技能の得点力を高めていきます。

難易度

大問9の条件作文以外は全て4択形式。語いレベル、問われる文法レベルは、昨年並みで、事前に発表されていたサンプル問題と同じく、資格・検定試験を意識したものになっています。250～300語程度の英文6つを読み、それぞれ4～5の小問を解答するスピードが求められています。

イングでは…

音読を中心に、4技能（読む・聞く・書く・話す）の習得を目指した統合型授業のカリキュラムを設定。教科書という上質の題材を音読することで、英語を英語として受け入れる力を育み、リスニング力を高めます。また、暗唱やディクテーションを行い、内容理解はもちろん、書く力も養います。上位者を対象とした選抜形式の対策や、C問題対策形式に沿った模擬試験も行っています。

理科

※理科は問題区分がなく、共通問題となります。

今年の入試の特徴

中1～中3で習う生物・地学・物理・化学の各分野からバランスよく出題されています。実験や観察の結果から、必要な情報を読み取り、科学的に思考し、答えを導き出す力・説明する力が問われる問題が増加しています。

その他の注目点

試験時間に比べ、年々文章量が増加しており、1問1問にかけることができる時間が短いため、できるだけ速く、問題の意図を読み取り、答えにたどりつく力が求められます。

難易度（昨年との比較）

今年は化学分野で難問が出題されています。水酸化ナトリウムの製造法について、実験結果の会話や文章中の説明から科学的に考察し、答えを導き出す問題が出題されました。また、各分野共に、昨年より難易度は上がっています。

イングでは…

公立高校入試では、定期テストに出題されるような基本問題の定着も必要です。そのためイングでは、定期テスト対策にも力を入れており、高得点を目指します。また、中学3年生の12月以降は入試対策を行います。季節講習会（春・夏・冬）や夏期特訓合宿を通して、中1～中3内容の復習を行い、入試に対応できる力を養成します。

数学

【A問題】

今年の入試の特徴

昨年度とほぼ同形式、同分野からの出題でした。大問は大きく分けて4題。大問1は「計算」、大問2は「数量関係」・「確率」・「関数の性質」・「図形」、大問3は「関数の利用」、大問4は「平面図形（証明を含む）」からの出題でした。

その他の注目点

大問3の「関数の利用」が、今まで出題されていた問題（規則性）と大きく異なる出題でした。また、大問4の「平面図形」で出題されていた「証明問題」は、昨年度に引き続き、穴埋め形式の出題であったため、比較的解きやすかったと言えるでしょう。

【B問題】

今年の入試の特徴

全体として、昨年度とほぼ同形式、同分野からの出題でしたが、「関数の利用」の出題内容は大きく変更されました。大問は大きく分けて4題、大問1は「数量関係」、大問2は「関数の利用」、大問3は「平面図形（証明を含む）」、大問4は「空間図形」からの出題でした。

その他の注目点

「関数の利用」が今まで出題されていた問題（規則性）と大きく異なる問題でした。ただ問題の内容は、教科書の章末問題と同程度の難易度であるため、落ち着いて問題を読み、条件を式で表すことができれば決して解けない問題ではありません。基本の問題を繰り返し解くことが得点アップには欠かせません。

【C問題】

今年の入試の特徴

昨年度の出題とほぼ同形式、同分野からの出題でした。大問は大きく分けて3題。大問1は「計算」・「文章題」・「確率」・「関数」・「数の性質」、大問2は「平面図形（証明を含む）」、大問3は、「空間図形」からの出題でした。

その他の注目点

大問1で新たに「連立方程式の文章題」が出題されました。また、大問2で毎年出題されている「図形の証明」は、かなり発想力を伴う過去最高のレベルの問題といえるでしょう。また、近年、出題されていた「三角柱の切断の問題」は、今年度出題はありませんでした。

難易度（昨年との比較）

難易度は、昨年度とほぼ同等のものでした。

イングでは…

イングは年内に教科書内容の指導を終了、冬期講習会から、私立・公立入試を見据えた指導を行います。得点差が生まれやすい問題、得点差が生まれにくい問題など、正確な分析を行い、受験生に情報を提供します。授業では、得点源とする問題を選定し、効率的に得点アップが図れるよう徹底指導をしています。

難易度（昨年との比較）

昨年と比較すると、全体的に難化傾向にあります。特に「関数の利用」が今まで出題されていた問題（規則性）と大きく異なるため、過去の問題を中心に解いてきた受験生は戸惑ったのではないかと考えられます。また、「図形の証明」では、かなりの発想力を伴う過去最高レベルの問題でした。

イングでは…

イングは年内に教科書内容の指導を終了、冬期講習会から、私立・公立入試を見据えた指導を行います。得点差が生まれやすい問題、得点差が生まれにくい問題など、正確な分析を行い、受験生に情報を提供します。授業では、得点源とする問題を選定し、効率的に得点アップが図れるよう徹底指導をしています。

難易度（昨年との比較）

全体的に難化傾向です。計算が複雑であり、1問1問の問題レベルが上がったと言えます。過去の問題を中心に解いてきた受験生でも、かなり苦戦したのではないかと考えられます。

イングでは…

イングは年内に教科書内容の指導を終了、冬期講習会から、私立・公立入試を見据えた指導を行います。得点差が生まれやすい問題、得点差が生まれにくい問題など、正確な分析を行い、受験生に情報を提供します。授業では、得点源とする問題を選定し、効率的に得点アップが図れるよう徹底指導をしています。

社会

※社会は問題区分がなく、共通問題となります。

今年の入試の特徴

地理・歴史・公民の3分野が、総合問題として問われています。また、資料や写真、地図から必要な情報を選び出し、学習した内容や知識と組み合わせる思考力重視の問題も出題されています。トップ校では、8割5分以上の正答率が求められます。

その他の注目点

歴史の出題率が50%を占め、地理・公民分野に比べて比重が高くなっています。出題されている時代は幅広く、内容も政治・貿易・文化と多岐に渡っています。特に年代の古いものから順に並びかえる問題が3題出題されており、断片的な知識ではなく、知識のつながりがなければ正解には結びつきません。

難易度（昨年との比較）

昨年度より難易度はやや下がっています。問題数も問題の問われ方にも大きな変化はありません。ただし、知識を問う問題は易しくなり、資料の読み取り、記述形式の問題は、昨年同様、難易度は高かったと考えられます。特に、資料の読み取りは、計算力（割合の理解）が必要となります。

イングでは…

1年間で「地・歴・公」を学習できる授業・教材・プログラムを提供しています。平常授業では、学校内容を先取りしますが、中3生の12月以降は入試対策の授業を行います。また、季節講習会（春・夏・冬）では「地・歴・公」の総復習をし、入試に対する実力を鍛えます。私立入試後は、公立入試問題に即した教材を使い、知識の整理のみならず、思考力を問う問題もトレーニングします。

【A問題】

今年の入試の特徴

出題構成（説明的文章・古文・随筆・漢字）や、配点に大きな変更はありませんでした。きちんと本文と照合すれば解ける記号問題と、抜き出し問題が多くを占め、記述問題は1問のみでした。作文も160字程度で書かせるもので、題材も扱いやすいものでした。

その他の注目点

作文と漢字は、得点差が生まれるポイントでした。作文では、自分の意見に対する根拠を述べることが求められます。

難易度（昨年との比較）

問題全般にわたり、教科書に掲載されている文章を丁寧に読むことができ、基本的な知識を身に付けていれば、十分に対応できるレベルの問題でした。記述問題の字数は、30字程度から10字程度と短くなりました。

イングでは…

イングでは、普段から文章読解中心のカリキュラムで授業を行っています。初見の文章を読み解く技術、記述問題の解答技術を伝え、繰り返しトレーニングを行います。この積み重ねによって、高校入試に対応できる力が必ず身につきます。

【B問題】

今年の入試の特徴

現代文2題、古文1題など、大問の出題構成、配点割合などに、昨年度から大きな変更はありません。現代文の文章内容についても、昨年同様、身近な自然をテーマにしたものでした。作文も、300字以内で、与えられた条件を踏まえ、自身の考えをまとめるという出題形式に変更はありませんでした。

その他の注目点

配点が高い作文問題（20点）、記述問題での得点力をいかにつけられるかが、対策の大きなテーマです。日頃から、できるだけたくさんの方の文章を読み、文章構成のパターンを知り、様々な人の考え方に触れることで、高得点が取れる問題だったと思われます。

難易度（昨年との比較）

文章内容・問題の難易度とも、昨年度から大きな変更はありませんでした。30～45字程度の記述問題についても、文章の根拠をとらえ、字数内でまとめるという基本問題であり、昨年度の問題をもとに対策を行っていれば、しっかりと得点できるレベルであったと思われます。

イングでは…

イングの授業では、2020年の大学入試改革を見据え、文章読解力・記述力・表現力養成のカリキュラムを実施しています。教科書内容だけでなく、普段から多くの文章に触れて、記述問題を繰り返しトレーニングを行うことで、公立問題に対応できる力を養成しています。

【C問題】

今年の入試の特徴

出題構成に大きな変更はありませんでした。全体的な問題数は減りましたが、記述形式の問題数はやや増えました。作文は「小論文」に近い出題で、時間内に書き切るための、全体の時間配分が鍵となりました。

その他の注目点

今年度のような作文テーマに対応するためには、文化・自然・歴史・科学、時事問題……など多岐に渡る分野・事象について日常的に関心を持ち、自身の考えを深めるトレーニング・習慣が必要です。

難易度（昨年との比較）

昨年度の問題からは、全体として易くなりました。文章題については、日頃から基本的な記述問題のトレーニングを行っていれば対応できるレベルです。作文テーマについては難化とみてよいでしょう。昨年は条件部分に書かれた具体的な意見について、自身の考えをまとめるものでしたが、今年度は、「文化比較」という抽象的なテーマを与えられ、自身の考えを書くという形式になりました。作文の出来具合が、差のつくポイントになったと思われます。

イングでは…

イングの授業では、2020年の大学入試改革を見据え、文章読解力・記述力・表現力養成のカリキュラムを実施しています。教科書内容だけでなく、普段から様々なテーマの文章に触れ、様々な人の考え方に会えるように指導しています。また、記述問題を繰り返しトレーニングすることで、公立問題に対応できる力を養成しています。

